

事務事業名		佐野各地区敬老会開催支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	公民館管理課
	政策	3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり					担当係	企画係	担当課長名	石川 一尚	
	施策	1 豊かで健やかな長寿社会の実現					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 生きがいづくりと社会参加の促進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14457	一般	10	4	2	佐野各地区敬老会開催支援事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H17年度～ 年度		根拠法令 条例等	老人福祉法		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
								任意的事業・義務的事業		任意的事業	
								実施方法		直営	
								事業分類		支援事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長マニフェスト		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
敬老会を開催する市内各地区の団体に、地域住民の高齢者福祉への関心を高揚し、高齢者への理解促進をはかること。さらに高齢者自身の生活意欲を向上するため、運営交付金を支出するものである。			(市の活動) 敬老会開催団体に、補助金を交付するための手続きをする。 (佐野各地区敬老会開催団体の活動) 敬老会準備会議、敬老会企画運営の実施をする。							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			補助団体数	団体	8	8	8	8	8	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
佐野各地区敬老会開催団体			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			補助対象団体数	団体	8	8	8	8	8	
目的 ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
敬老会が円滑に開催できるよう、敬老会開催団体を支援する。さらに、補助金の効率的な運用を推進する。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			補助金を有効活用した団体数	団体	8	8	8	8	8	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
永年培った知識・経験を活かし、多様な社会活動へ参加できるようになる。その結果、高齢者の知識・経験が若年世代へと継承される。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			ふれあいサロン参加高齢者(延べ)	人	61,082	66,000	64,232	61,082	66,000	
			老人福祉センター利用者(延べ)	人	148,959	144,000	140,071	148,959	144,000	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	7,179	7,262	7,329	7,329	7,329	
	事業費計(A)	千円	7,179	7,262	7,329	7,329	7,329	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			交付金	7,179	交付金	7,262	交付金	7,329
	人件費	千円	78	78	78	78	78	
トータルコスト(A)+(B)	千円	7,257	7,340	7,407	7,407	7,407		
正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2		
のべ業務時間	時間	20	20	20	20	20		
人件費計(B)	千円	78	78	78	78	78		

事務事業名	佐野各地区敬老会開催支援事業	担当部	教育総務部	担当課	公民館管理課	担当係	企画係
-------	----------------	-----	-------	-----	--------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年の新市誕生後、これまでの主催者であった佐野市から、敬老会開催団体へと変更し、敬老会開催についての開催団体の主体性向上を図った。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	人口構成の急激な変化によって、超高齢化社会を迎え、対象の高齢者は年々漸増状態にある。しかも、独居高齢者の割合も増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	敬老会を開催することにより、高齢者の社会参加促進と、地域住民が、高齢者に感謝と敬意を持つ動因と、機運醸成に一定の役割を果たしている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	(3)の②の通り、年々敬老会対象者が増加するが、事業コストの増加を抑制した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 敬老会の開催は、高齢者福祉の理解促進と、高齢者の生活向上、社会参加を目指している。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 高齢者福祉の理解促進と高齢者の生活向上意欲促進のために実施する敬老会は、これを開催する団体に対し、活動支援を行うことは、行政の責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 敬老会の開催団体に対して、事業費の補助であり、妥当なものである。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 益々高齢者が増加する状況にあり、敬老会だけではなく、高齢者施策全般の中での再考察の視点が必要になっていると、強く感ずるものである。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
総合 評価	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 受益者は、高齢者・敬老会開催団体・行政であり、適正である。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
① 実施が困難になった場合。② 他施策に統合された場合。③ 高齢者を廻る環境が改善され、敬老会の必要がなくなった場合。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(コストの見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 対象者の増加が、歳出増加の圧力となるが、事業内容・給付を見直し、増加を抑制に努めて参りたい。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>①</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持	①		×	低下		×	×	高齢対策施策の中にあり、いずれも対象者が増加傾向ということで、事業予算が厳しくなっている。そこで、コストの見直しを強力に進めなければならない。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持	①		×																					
	低下		×	×																					